



マクロ経済学A

第12回 IS-LM曲線



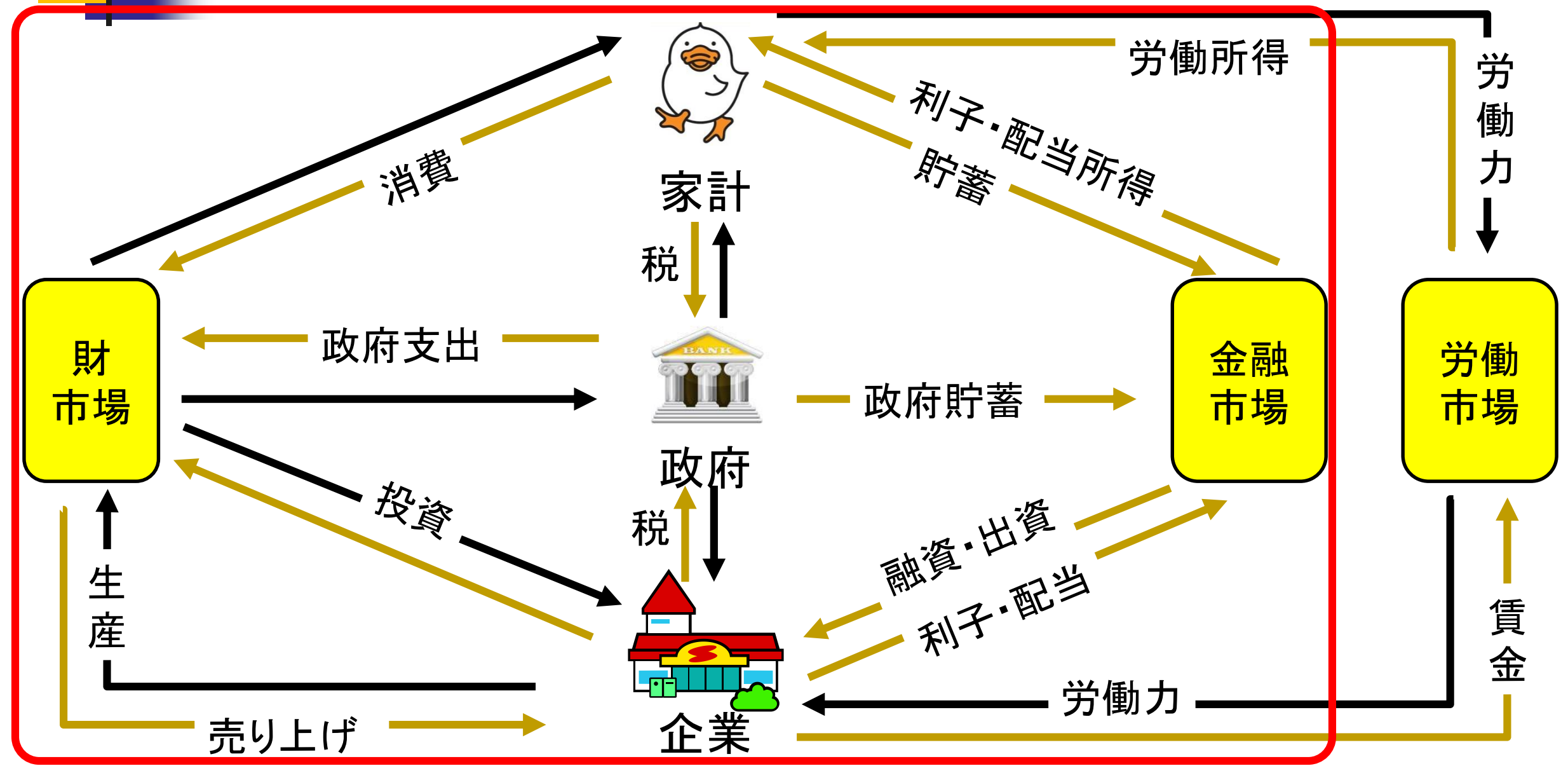
この授業の内容

- ① IS曲線
- ② LM曲線
- ③ IS - LM曲線



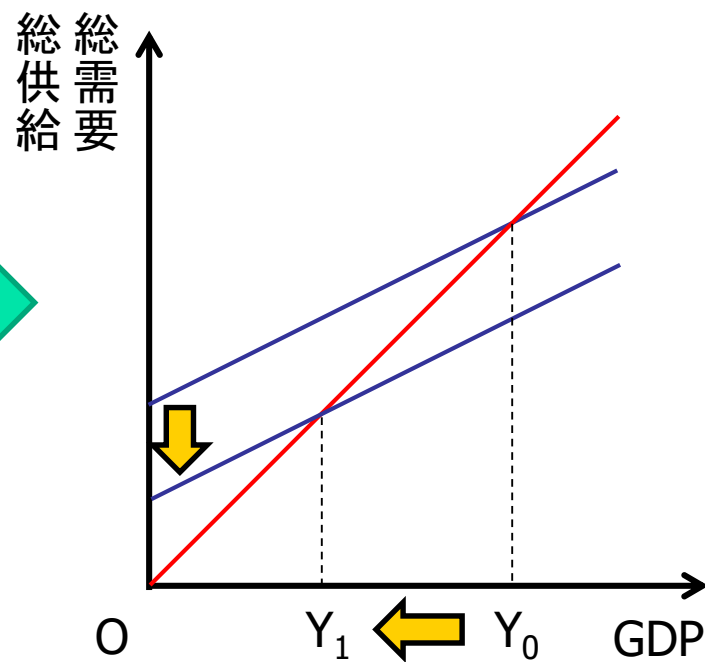
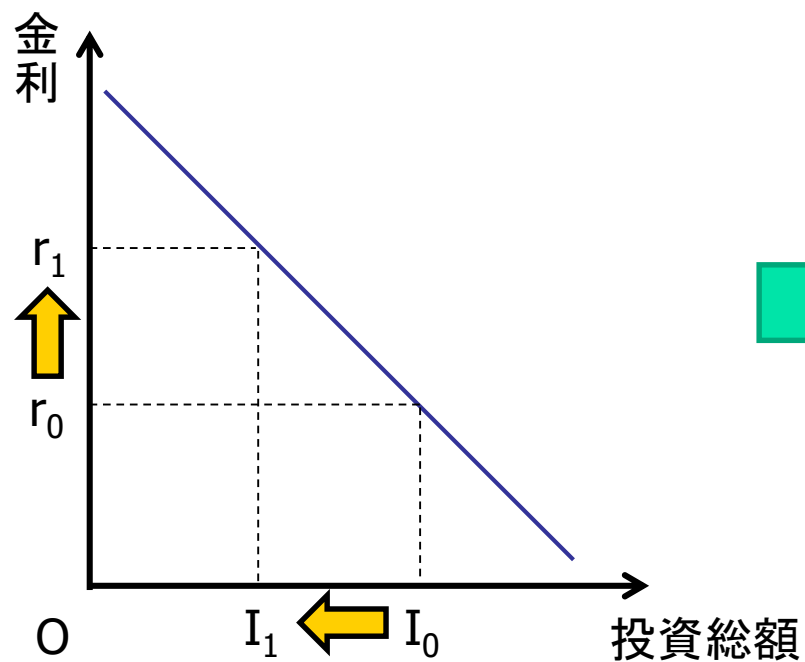
① IS曲線

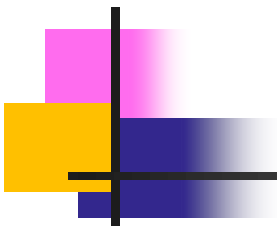
経済主体と市場の関わり



投資と金利とGDPの関係

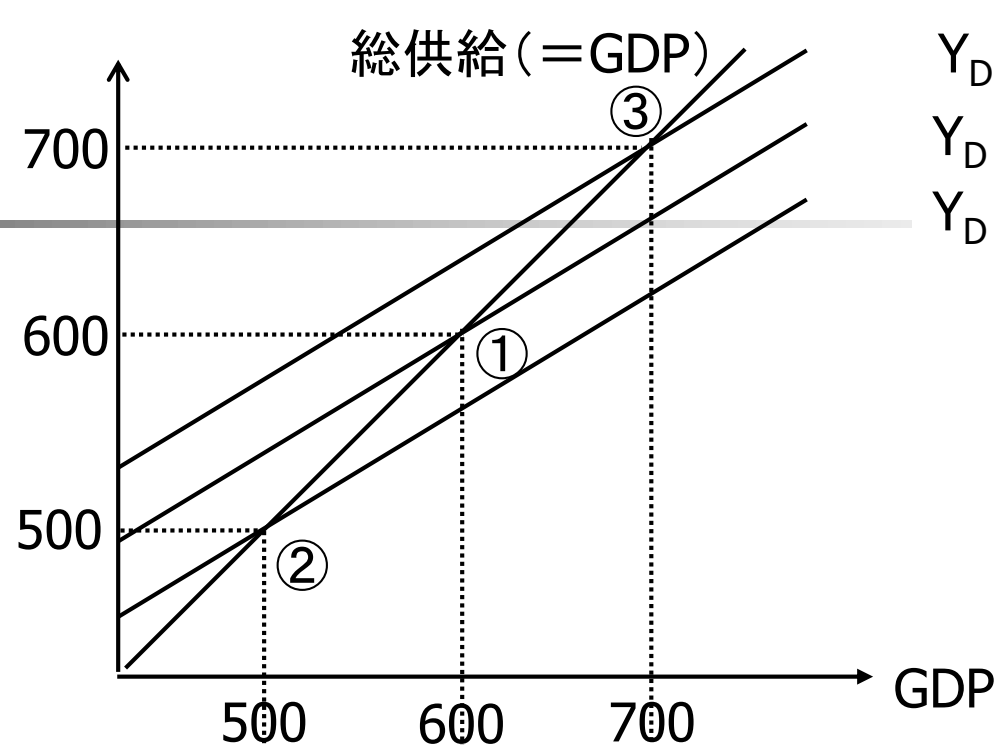
- 金利が上がると投資額が減少
 - 投資額が減少すると 総需要が減少
 - 総需要が減少すると 均衡GDPが減少



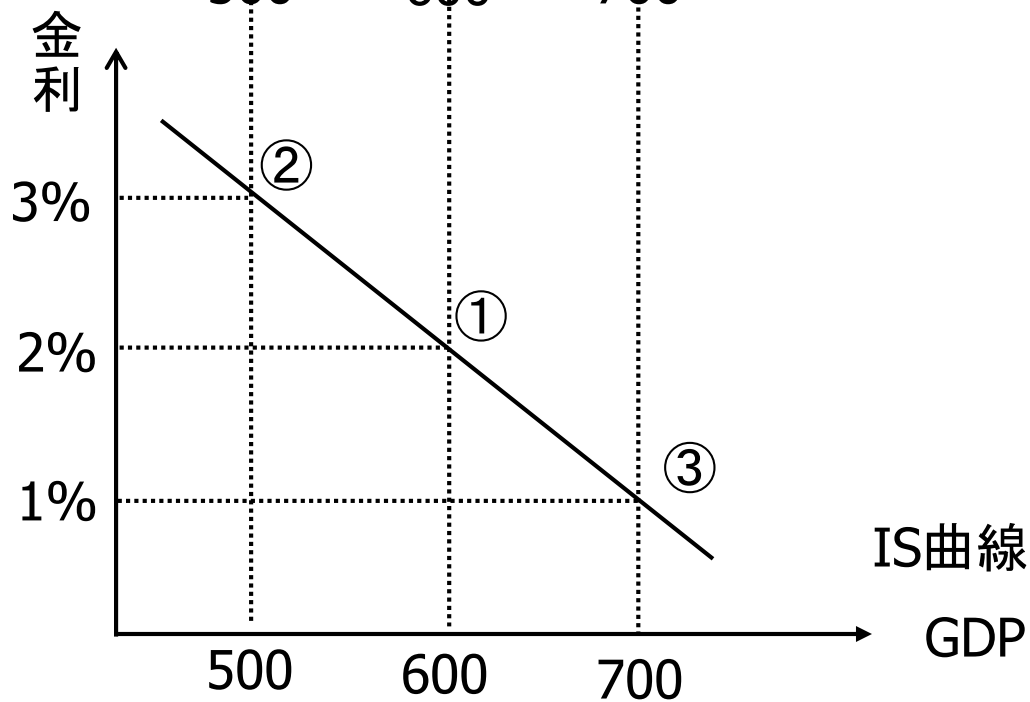


財市場

総供給
総需要



IS曲線
財市場が均衡する
金利とGDPの組
み合わせ





IS曲線

- 投資の水準は利子率に依存
- 利子率の上昇は投資の減少を通じてGDPに投資乗数倍の減少をもたらす

IS曲線

財市場において総需要と総供給が一致するような利子率とGDPの組み合わせを描いた曲線

数式で見るIS曲線

投資関数

- $I = I_0 - vr \quad [I_0 > 0, v > 0]$
- $Y = C_0 + cY + I_0 - vr + G$
- $r = -(1-c)/v \times Y + (C_0 + I_0 + G)/v$

IS曲線

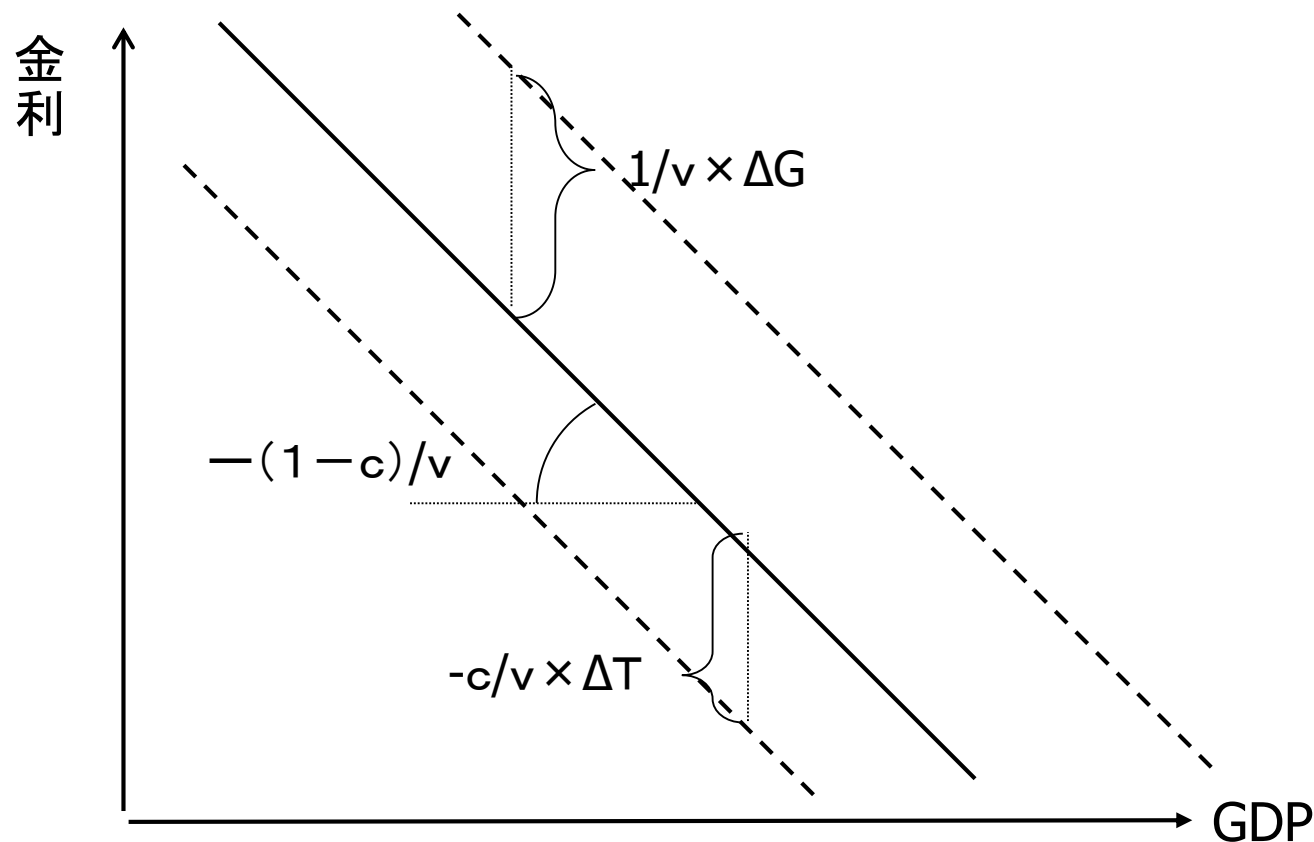
$$r = -(1-c)/v \times Y + (C_0 + I_0 + G)/v$$

政府支出増加による変化

$$\Delta r = 1/v \times \Delta G$$

租税増加による変化

$$\Delta r = -c/v \times \Delta T$$





② LM曲線

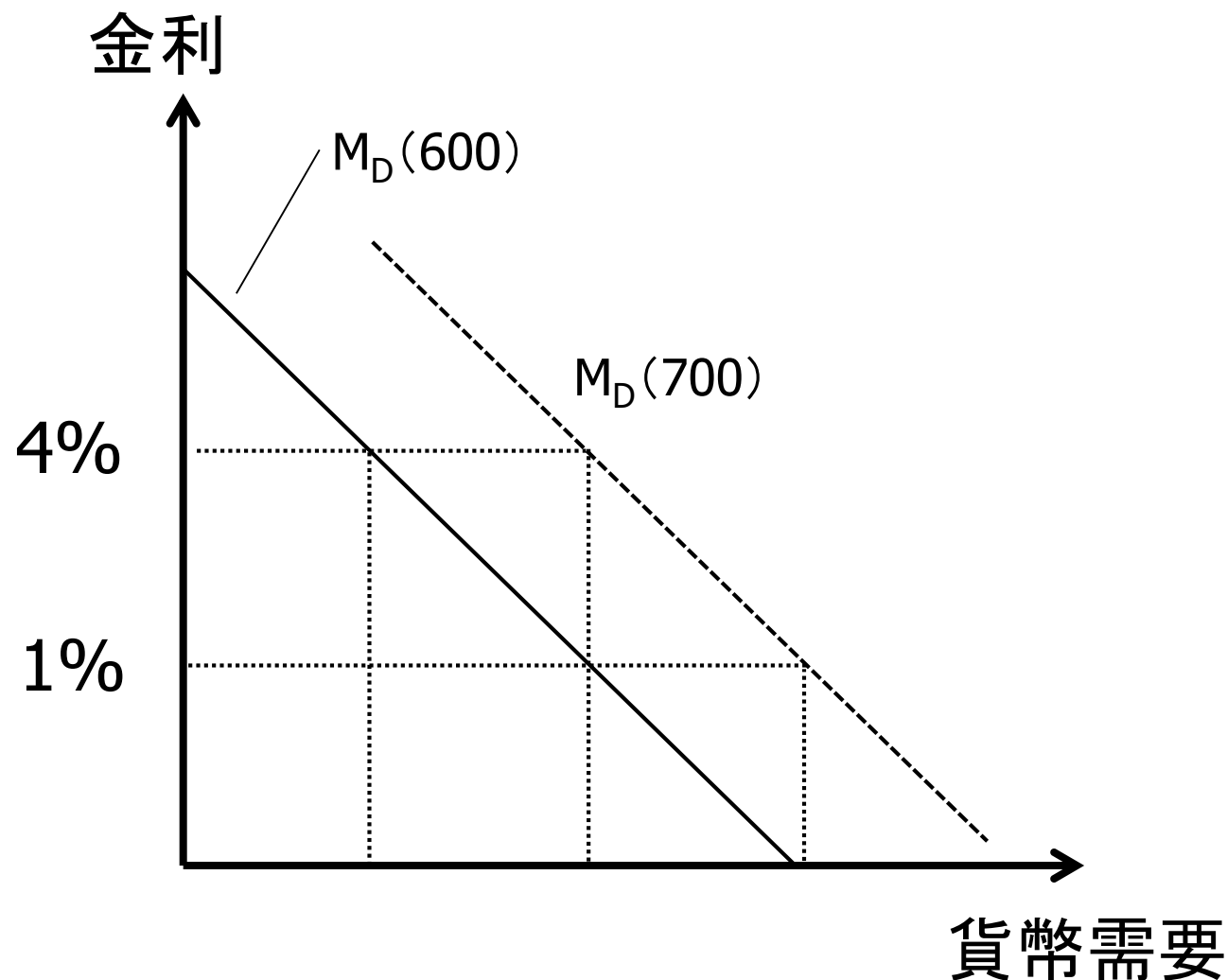
貨幣需要曲線の式

$$M_D = kY + L_0 - l r$$

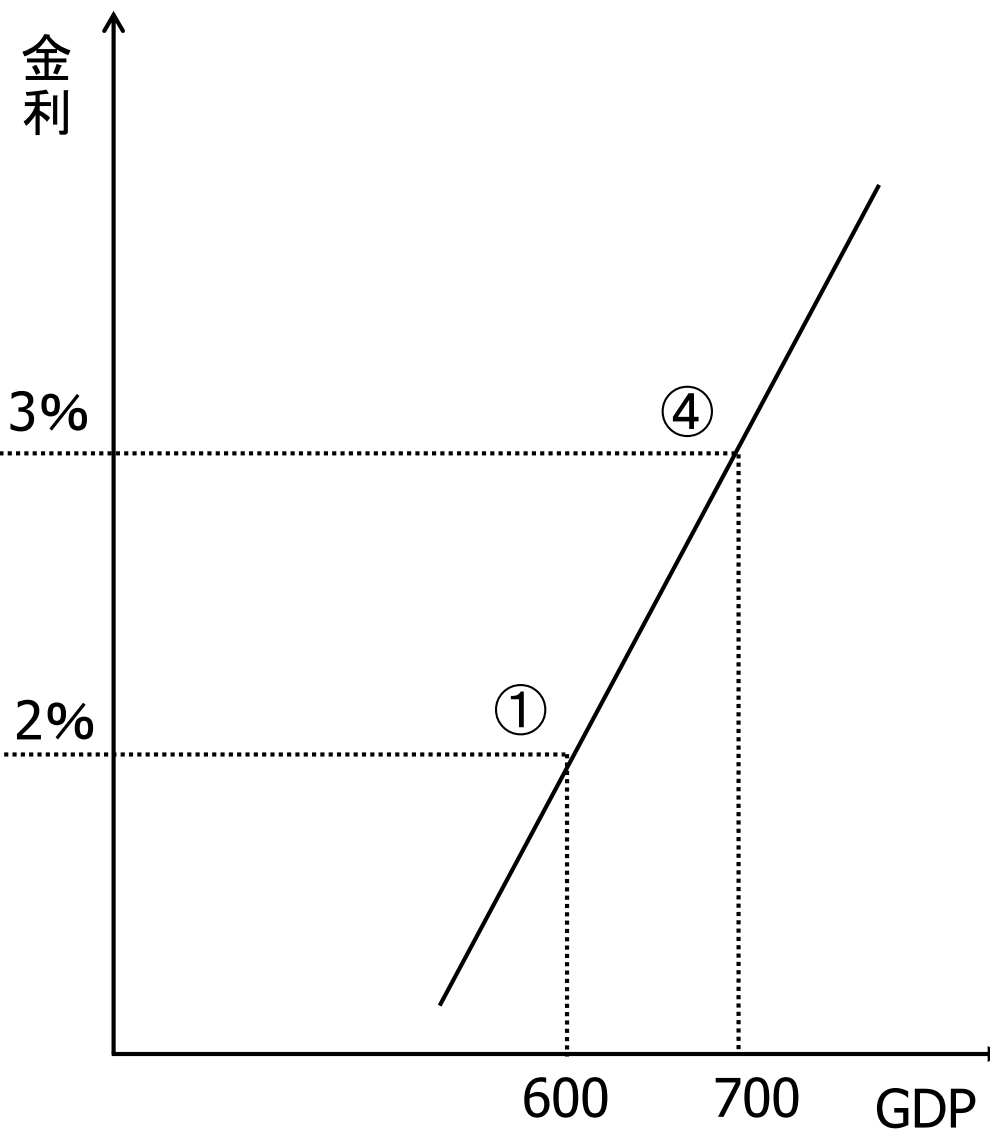
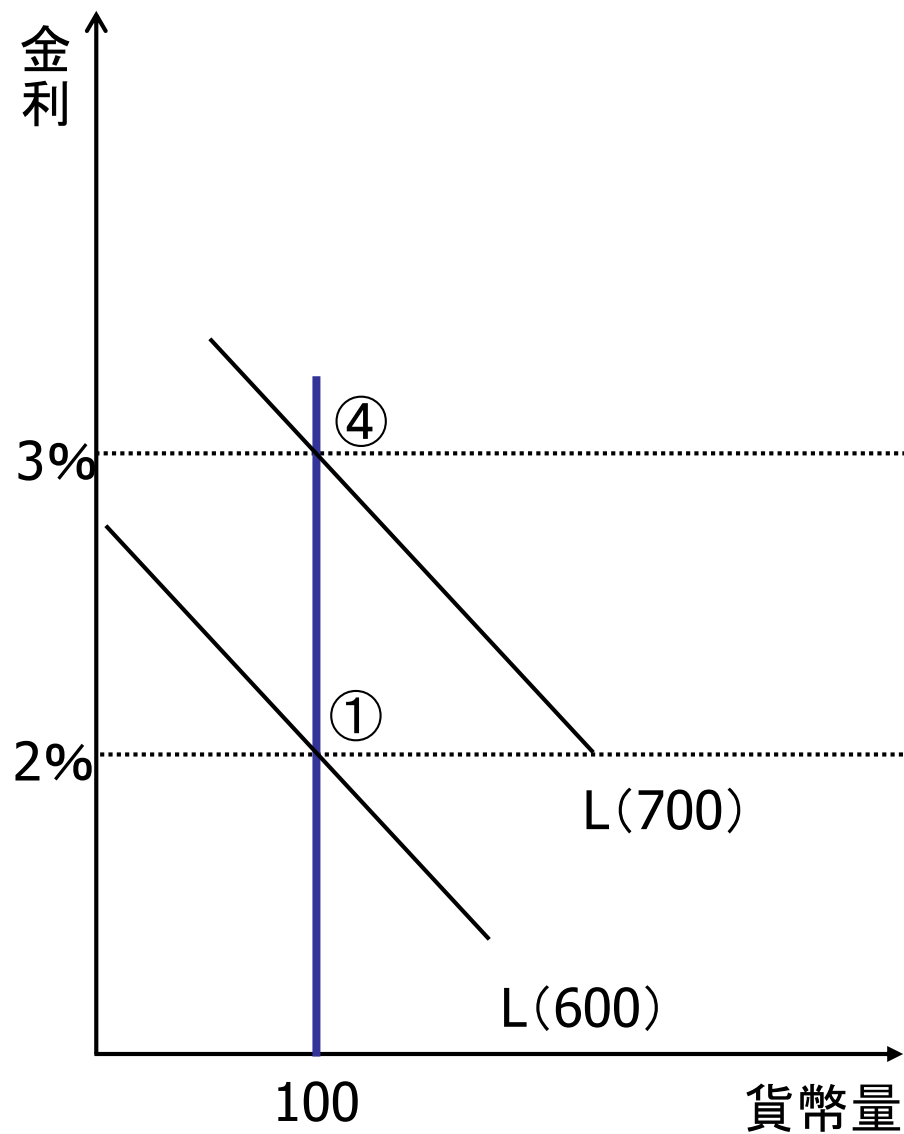
kY : 取引的・予備的動機
(所得 Y の増加関数)

$L_0 - l r$: 投機的動機
(利子率 r の減少関数)

- 貨幣需要曲線は所得 Y を固定した時の利子率と貨幣需要の関係を表す
- 所得が増加すると貨幣需要曲線は右にスライドする



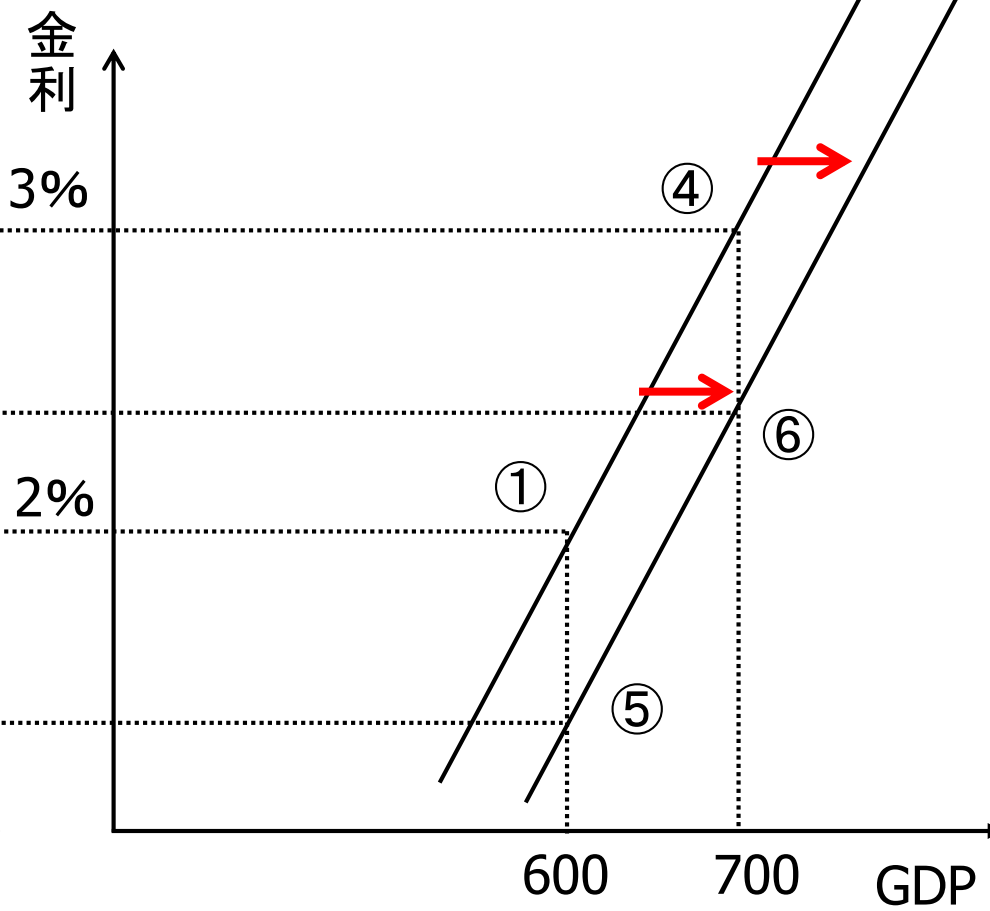
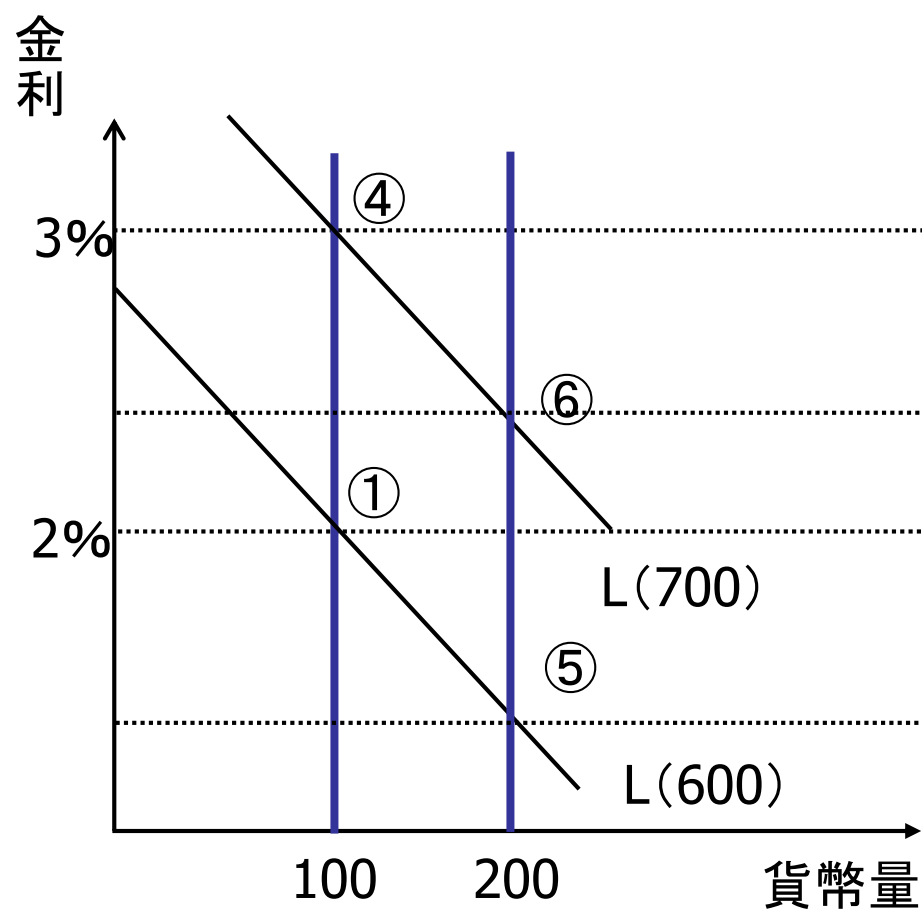
貨幣市場



LM曲線の移動

➤ 貨幣供給量の増加

➤ GDPが増加した場合、貨幣需要が増加し、LM曲線が右に移動



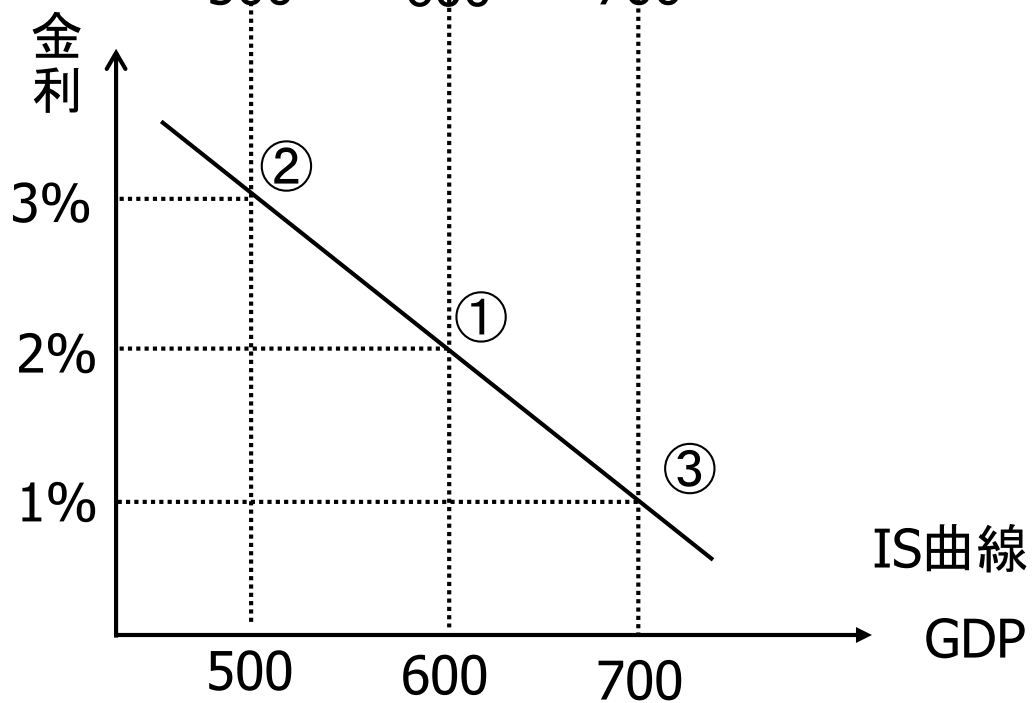
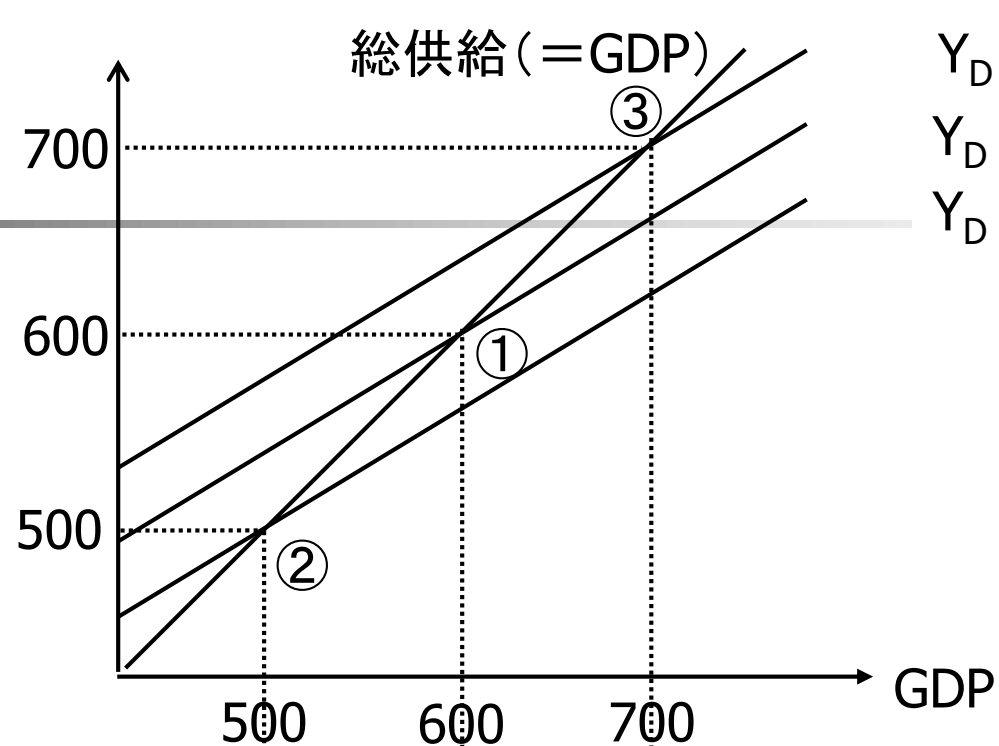


③ IS-LM曲線

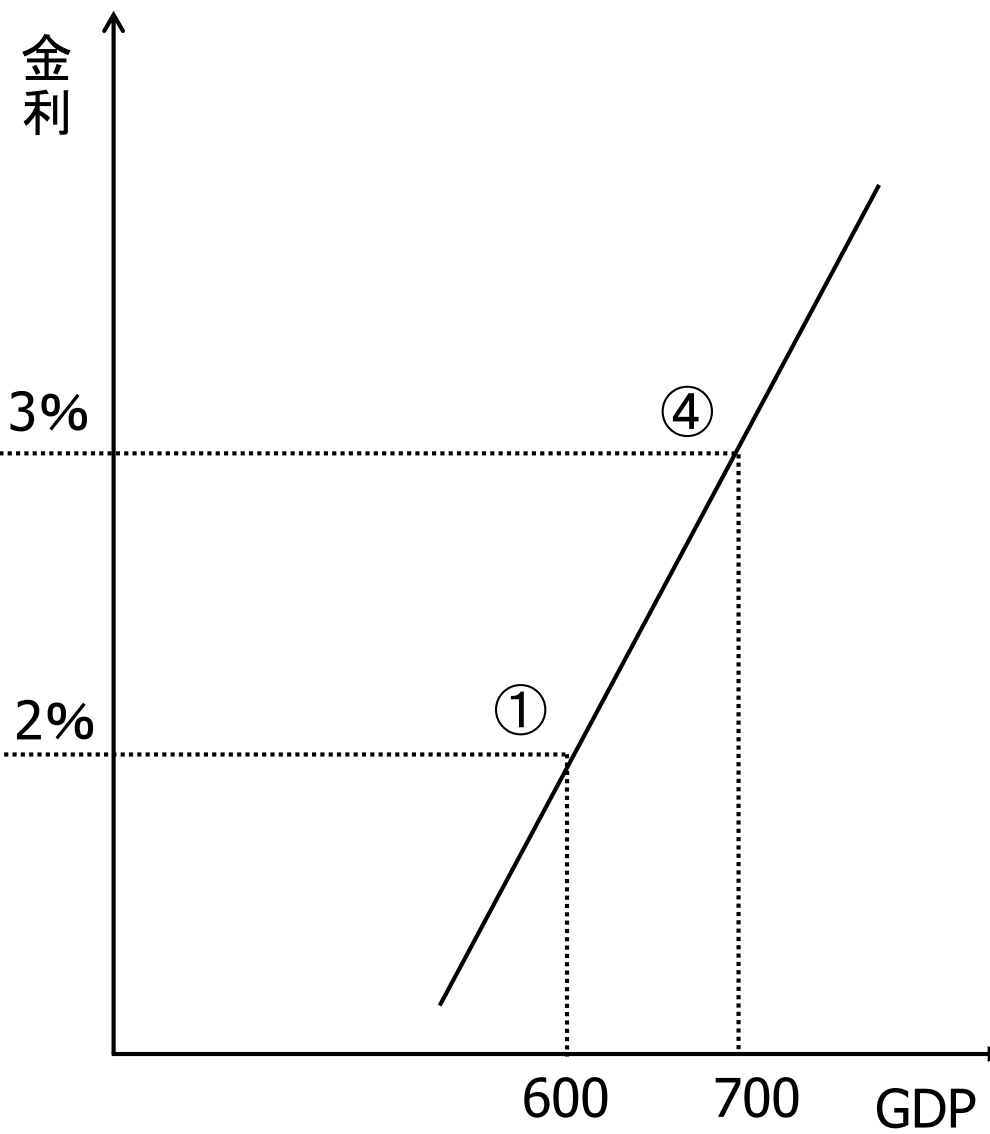
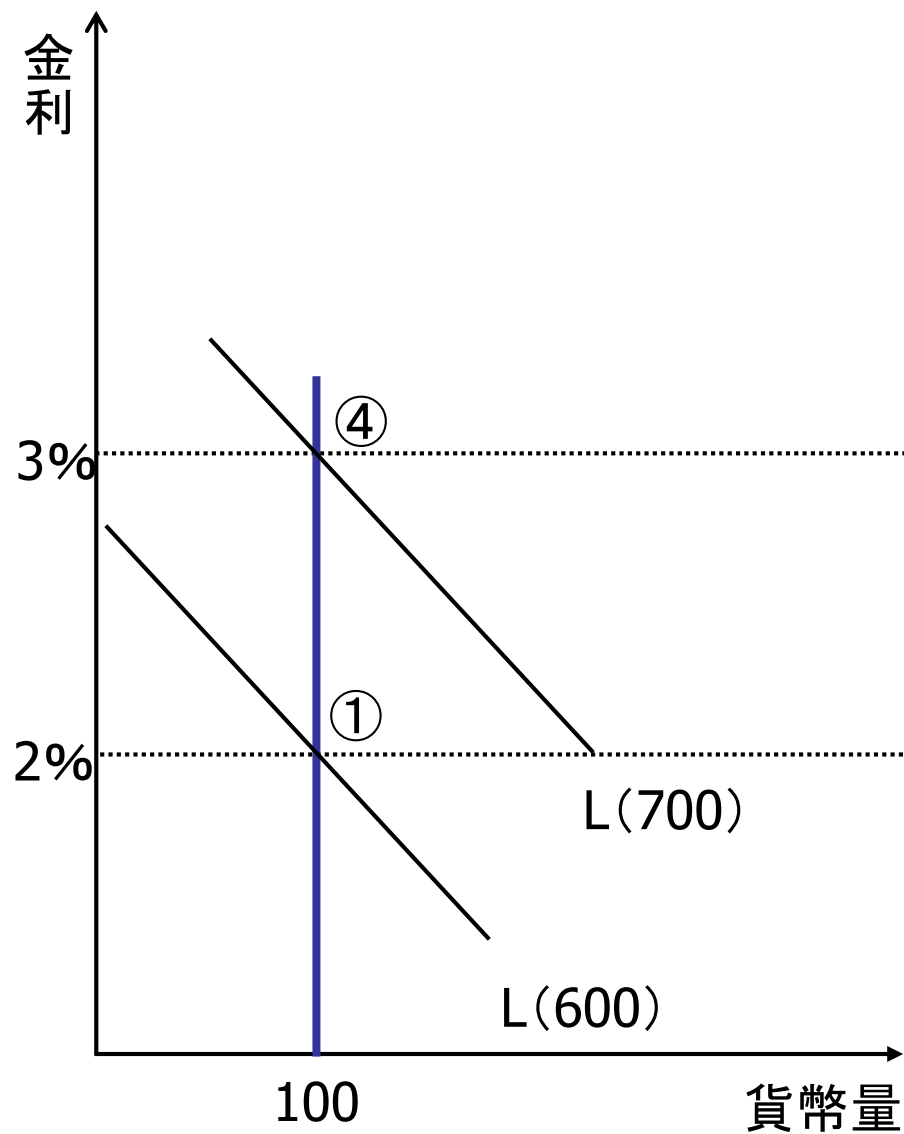


財市場

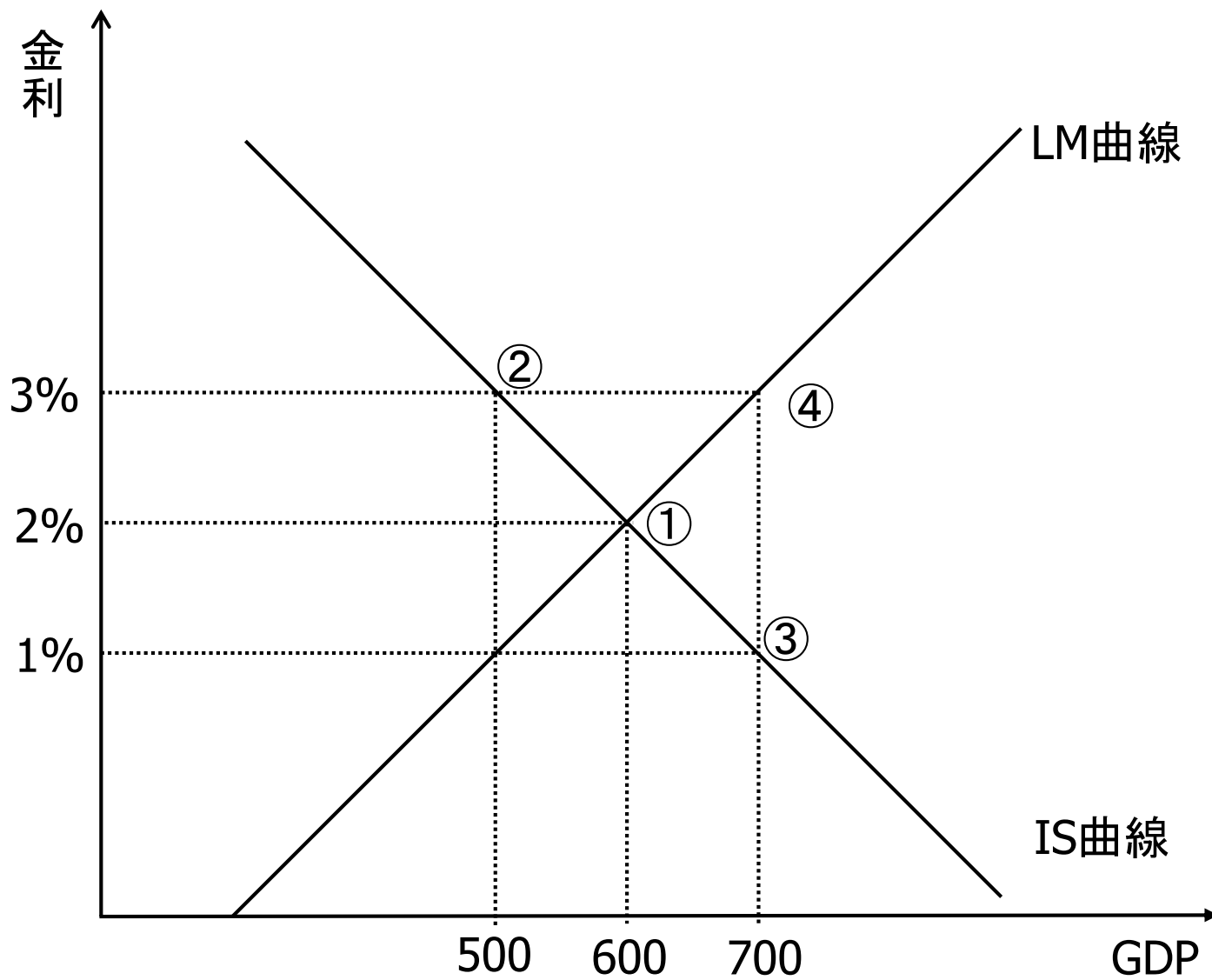
総供給
総需要



貨幣市場



IS曲線・LM曲線





均衡以外での状態

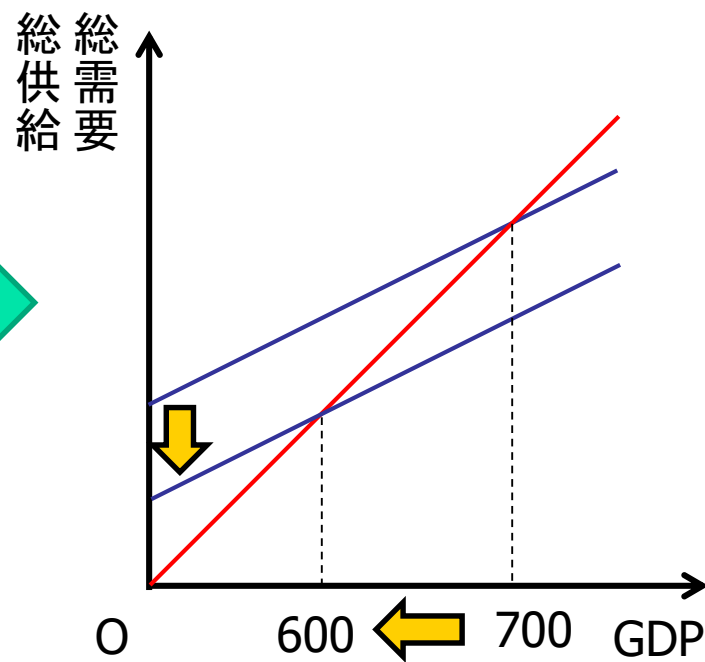
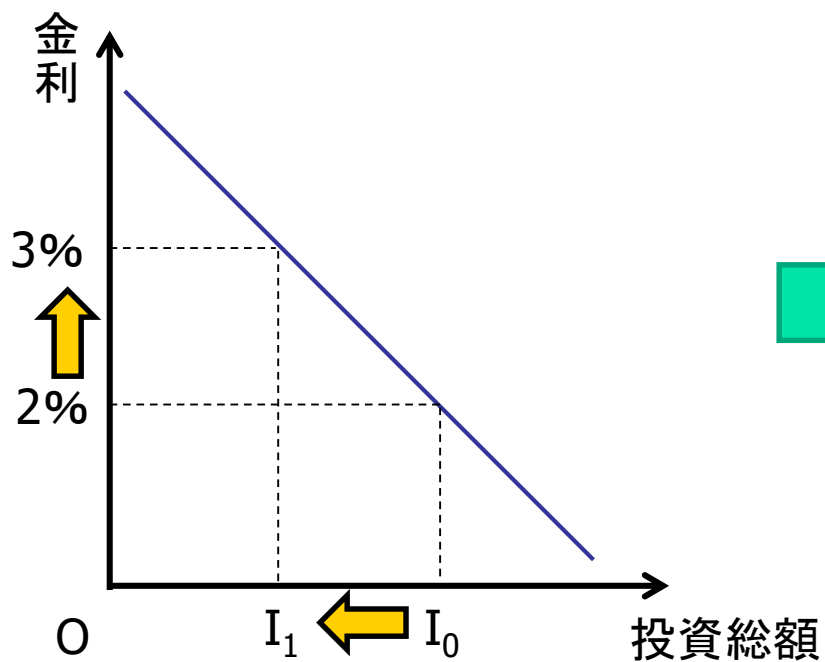
貨幣市場は均衡しているが財市場では金利が高すぎる場合④

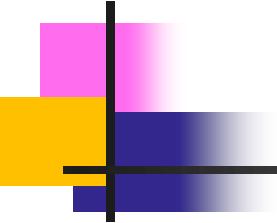
投資が減り、財市場のGDPは減少

GDPの減少により貨幣需要が減少し、金利が下がる

投資と金利とGDPの関係

- 金利が上がると投資額が減少
 - 投資額が減少すると 総需要が減少
 - 総需要が減少すると 均衡GDPが減少





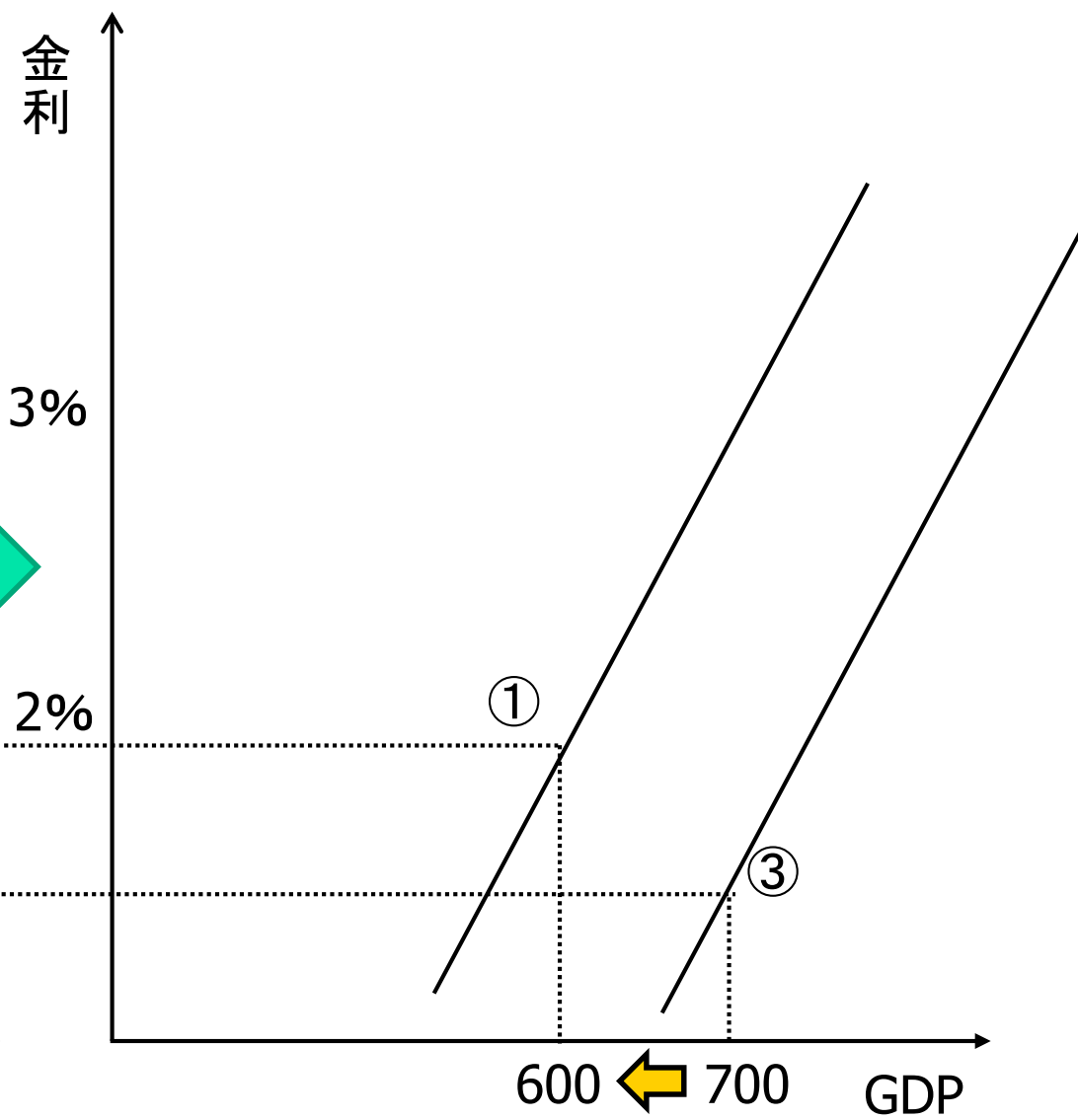
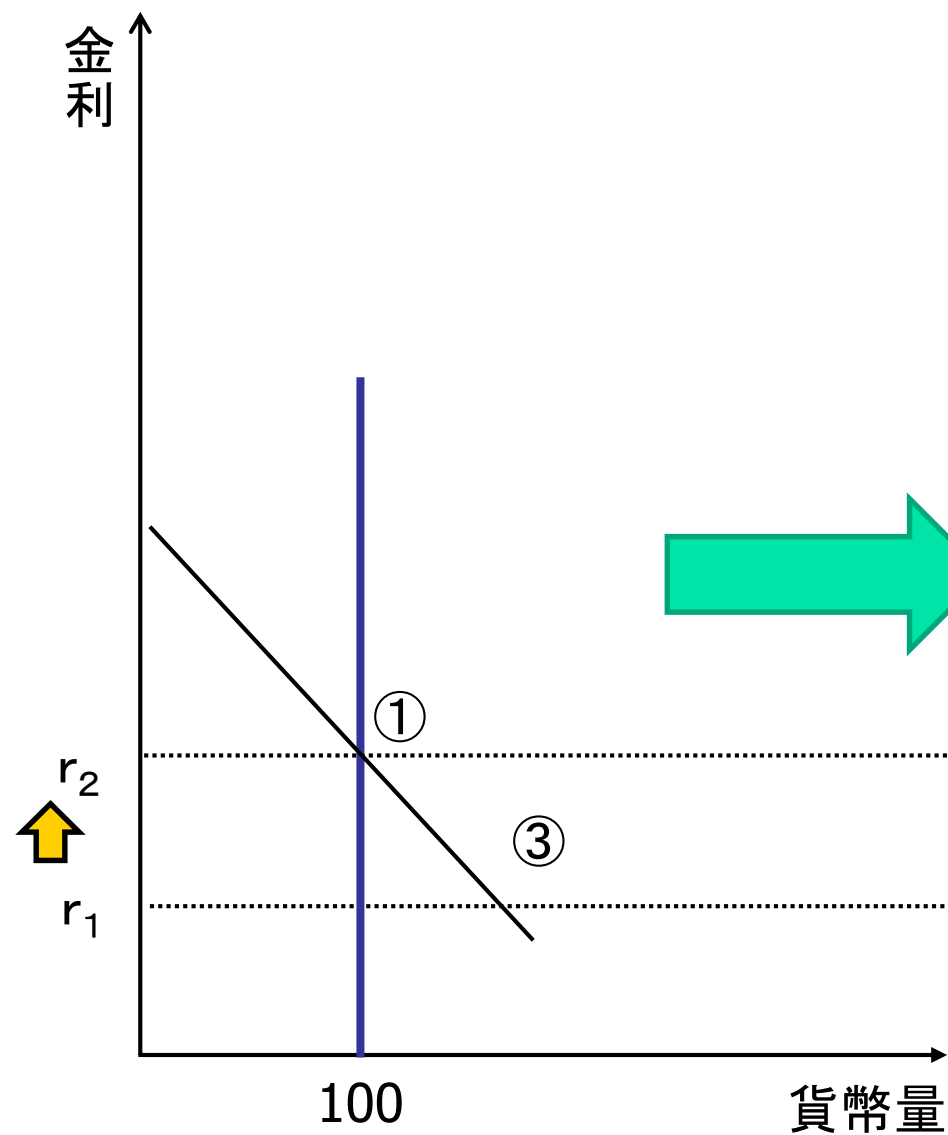
均衡以外での状態

財市場は均衡しているが、貨幣市場で金利が低すぎる場合③

金融資産から貨幣に交換しようとする動きが出て金利が上昇

金利の上昇により投資が減り、財市場のGDPが減少

貨幣市場





この授業で学んだこと

IS曲線

LM曲線

IS-LM曲線